

乳幼児期の歯科

Beauty&Healthy Smill Club
Beauty&Healthy Smill Club

① 母体と赤ちゃんの歯の関係

(1歳6カ月ぐらいまで)

つわりがひどくても

赤ちゃんの歯に悪い影響はありません。

しかし、人と喋らなかったり、嗜好が変わり、

母親の唾液の分泌が減少して、

歯周病やムシ歯になりやすい環境にあります。

つわりでつらい時は食べたいものを食べてください。

バランスのとれた普通の食事をとっていれば、

赤ちゃんの健康な歯はつくれます。

胎児の発育に障害をもたらす薬や放射線、細菌感染

などの母体の異常は赤ちゃんにも

影響を与えることがあります。

※産科医と十分相談してください。

② 生まれつき生えている歯の話

生まれたときすでに歯が生えていたり、
生後間もなく歯が生え始めることがあります。

この歯は「先天性歯」と呼ばれ、
下の前歯に多くみられます。
特に問題がなければそのまま様子をみます。



処置に関しては
かかりつけの歯科医院にて
ご相談ください。

③ 嘔乳ビンむし歯



ほ乳ビンむし歯のため、上の前歯が全部溶けている。

子どもを寝かせるとき、
嘔乳ビンにミルクや
スポーツドリンク、
乳酸菌飲料、

ジュース

などを入れて飲ませると、

上の前歯が全部溶けてしまう事があります。

寝ているときは唾液があまりでないので、

上の前歯がムシ歯になってしまうからです。

※嘔乳ビンを赤ちゃんの手やゆりかごの縁で支えるなど、
目を離す事は絶対に避ける様にしましょう。

④ 歯のできる時期と生え方

歯の形ができるのは妊娠4カ月半ぐらいからです。
最初に生える永久歯がすでにでき始めています。

乳歯はまず下アゴの真ん中に生後7～9カ月頃から2本生え始めます。
離れたり曲がって生えてくることがあります。心配はいりません。

1歳3カ月頃になってもまだ歯が生えてこないようなら相談しましょう。

続いて上の真ん中の2本という順番で、
最後に上の奥歯(第2乳臼歯)が2歳半頃生えてくるのが
平均的です。



3歳頃には
上下20本の乳歯がそろいますが、
個人差がありマチマチです。

※多少遅くても問題ありませんが心配でしたら
3歳児歯科健診の時に相談すると良いでしょう。

哺乳と離乳



① 上手にオッパイ飲んでますか？

②【赤ちゃんの味覚】!?

③【離乳の目的と開始時期】!?

④【離乳のすすめ方と断乳時期】!?

⑤【手づかみ】で食べさせましょう!!

⑥コップで飲ませてみましょう!!

① 上手にオッパイ飲んでいきますか？

赤ちゃんはオッパイを吸うことでお母さんとの
強い絆をつくり、

食事以外にも情緒の発達にとって大切な意味をもっています。

オッパイを吸うことにより

舌、唇、頬、あごの運動機能と形態の発達をさせます。

哺乳ビンを使用するときは乳首は、

吸い穴の大きいものや流量の多いものはやめましょう。

月齢や飲む力に応じて、大きい乳首に変えていく必要があります。



上手にオッパイを飲めない理由として、

以下のことが考えられます。

主治医に相談しましょう。

子供からお年寄りまでレーザーで無痛治療を目指します

- 1 未熟児のため機能が未発達。
- 2 舌小帯が短く、舌の運動が機能的でない。⇒舌小帯切除
- 3 お母さんの飲ませ方が上手でない。
- 4 お母さんの乳首がへこんでいたり、吸い付き難い形をしている。

②【赤ちゃんの味覚】!?

味覚形成の基礎は離乳期です。

離乳期からの食生活が食べ物の好き嫌いにつながります。

できるだけ多くの種類の味、



食物を体験させ、

薄味で育て、



※甘党にはさせないよう注意しましょう。

③【離乳の進め方と断乳】!?

味付けはごく薄味にし、

赤ちゃんの口の中に食べ物を入れるのではなく、
自分自身のくちびるでとらせることが大切です。

離乳の進め方は食品の種類とは関係なく、
調理形態で決めて差し支えありません。



すなわちどろどろ食→舌でつぶせる程度→歯ぐきでつぶせる程度の調理形態へとすすめていけばよいと思います。

食品はバラエティーに富む方がよく、開始の頃は米、ジャガイモなどの
でんぷん質性食品を主とし、
その後、豆類、卵、魚、肉などの蛋白食品を
配慮して調理してください。

離乳食の後のミルクは次第に減量し、中止していき、
断乳は1歳を目安にして、遅くとも1歳6カ月までには完了させましょう。

④ 【離乳の目的と開始時期】 !?



離乳の目的は

栄養の補給でもありますが、

赤ちゃんに

食べ物には

いろいろの形があり、

いろいろな味がある事を覚えさせ、

夫々に合わせた食べる能力を

徐々に身に付けさせる処に意味があります。

味覚トレーニングの意味もあります。

すなわち食べるための練習期であると考えられます。

※離乳の開始は生後5カ月頃を目安にしましょう。

⑤【手づかみ】で食べさせましょう!!

赤ちゃんの最初に使う道具は
手づかみです。

物の温度、固さの感触を知り、
それに合わせて

物を握る力加減を覚えます。

また、口に運んで前歯でどのぐらいの量を噛み取れるか、

自分で処理できる量や大きさを
学習します。

さらに、くちびるの補食力の強化にも役立ちます。

※手づかみで、周りを汚されるのを嫌う事は、
赤ちゃんの食べる事への学習を阻む事になります。

⑥ コップで飲ませてみましょう!?

赤ちゃんが、

コップで液体を飲む様になるには、

くちびるの機能の発達が非常に大切です。

先ず、コップのふちを上下のくちびるではさませるようにさせ、

コップを少し傾ける様にして上げると好いでしょう。

子どもが自分の力で、すすりこむように出来る様にれば、

後は、お母さんは、コップを支えて上げるだけでよいでしょう。

※こうして、一歩ずつ何でも飲んだり、食べた
り

する事ができる様になります。

乳幼児の歯科治療

- ① 歯科医院のかかり方
- ② 泣いていやがる歯の治療
- ③ 治療時の母子分離
 - ④ 注射の麻酔
 - ⑤ 急な歯の痛み
- ⑥ 乳歯のおし歯の特徴
 - ⑦ おし歯の治療法
- ⑧ 歯と歯のあいだのおし歯
- ⑨ 乳歯の前歯の治療
- ⑩ レントゲン写真の必要性
- ⑪ 障害を持っている子どもの歯の治療
- ⑫ けがで歯がかけた、抜けた



① 歯科医院のかかり方

1歳6カ月児健診をきっかけに、
定期健診やフッ素塗布を行う事をお勧めします。

持っていくもの

1. 保険証
2. 母子手帳
3. 乳幼児医療費受給者証
4. お子さんがいつも使っている歯ブラシ
5. 着替え(汗をかいたり、吐いたり、お漏らしをすることもあります)。



この時期から、食事指導を受け、
むし歯、歯肉炎、歯並びなどの
歯科的問題点を観察してもらいながら、

※定期的に歯磨きや予防処置を
【かかりつけ歯科医】ですて貰いましょう。

泣いて嫌がる子の治療

2歳時児

泣いていやがるのは当たり前で、それは成長の証拠です。

3歳児

自我の芽生えにより、3歳後半から
学習すれば、一人で治療できるようになります。

応急処置が必要な場合には、泣いていても治療はさせて呉れます。

4～5歳児

話を聞くことで、理解できる年齢なので、
納得させてから治療をする様にしています。

うそをついて連れてきたり、眠い午後の時間に連れてくると

泣いてぐずる事があります。

※ 歯科医院へ連れて来るときの促し方と

時間帯には気をつけましょう。

お母さんは治療後、お子さんが頑張ったことを

必ずほめて上げる様にして下さい。



③ 治療時の母子分離

3歳過ぎたら

治療室に入るのは子どもだけと
している歯科医院は多いようです。

このころから

少しずつ環境に適応できる能力が身に付いてくる頃ですので、
自立には好い体験学習のチャンスだとお考え下さい。

※当院では3歳未満では、親御さんに傍について貰っています。

※当院は待合室と治療室とが区切られていない

オープンスペースなので、

母子がお互いの顔が見える為、

声も掛け易く、

親子・スタッフ双方が、緊張感を感じないで、済んでいます。



④ 注射の麻酔



このQPは痛い!!
休みたい!!
何スノ!?などの
合図に使います

歯を削ったり抜いたりする処置を
痛くない様にするために、

注射の麻酔をする事がありますが、

の針を刺す皮膚の表面に表面麻酔薬を塗り、
細い針を使ってそっと刺しますと、
思ってるほど痛くはないはずです。



※アレルギー体質の場合は、前もって申し出てください。

※麻酔でしびれた唇や頬の内側は感覚がなくて、

噛んでしまう事があり、ひどく腫れ、

食事が摂りにくくなる事があります。

しびれている間は噛まないように気をつけて上げましょう。

※当院ではレーザー照射併用により、除痛効果を上げています。

⑤ 急な歯の痛み



歯の神経まで達しているような大きなむし歯は、

急に痛むことがあります。

食べ物がそこに押し込まれているときは

楊枝やフロスでそっと取り除いてあげてください。

その後、ぬるま湯の渋いお茶などを局部に垂らすと楽になります。

寝たり、お風呂に入ったりすると、

体温が上がり、

血のめぐりがよくなって化膿したところが痛むことがあります。

その時には冷たいタオルで冷やし、痛み止めを飲ませて下さい。

噛み合わせると痛がる時には、ストローなどを横に咥えさせましょう。

⑥ 乳歯のむし歯の特徴

進み方がとても早く、
お母さんが気がついた時には、かなり大きくなっている事が多く、
(ある日突然、大きな穴が開いてしまう)
数本の歯が同時にボロッとくずれている事があります。
そうした時は、モノがよく挟まるようになります。

むし歯がかなり進行しても
子供は痛みを訴えないことが多い様です。



に痛みだしたり、顔が腫れたりすることもあります。

むし歯が進んで化膿した乳歯は、
歯に悪影響を及ぼすことがありますので、
そうした時には
レントゲンを撮り、治療する事をお勧めします。

⑦むし歯の治療法

むし歯を削る

むし歯は広い範囲に深く進んでいることが多く、削る量も多くなりがちです。削り終わると神経を保護する薬を塗って、詰め物をして元の形に治します。削る量が多ければ冠(クラウン)をかぶせることもあります。

神経を取る

神経にまで届いているときは神経(歯髄)を途中で切断したり、全部取り除くことになります。そのあとは上から冠をかぶせて治しますが、あごの中にある大人の歯には影響ありません。

根の治療

むし歯が大きくなって神経が死んで根の先まで化膿してしまうと、根の先まできれいに薬が届くように削って消毒し、きれいになったら薬を詰めます。時にして、永久歯に影響を与える事もあります。

⑧ 歯と歯のあいだのむし歯

知らないうちに歯と歯のあいだが欠けて穴が開き、
食べ物がつまって歯肉が痛むことがあります。

そうした時には、詰まったものを取り除くと、楽になります。
すでに神経までむし歯が届いてしまっていることも多くあります。

むし歯を見つけるためにレントゲン写真を撮ってもらい、
むし歯があれば早めに治しておきましょう。

当院では、レーザーによるムシ歯検査と治療を行っています。

⑨ 乳歯の前歯の治療

前歯は奥歯に比べむし歯の進行が遅く、
また詰めても取れやすいため、

小さなむし歯はむし歯の進行をおさえる薬を塗りながら
様子を見ることが多いようです。

ただし、むし歯の部分が黒くなる欠点があります。



※当院では黒くならない方法としてレーザー照射を行なっています。

⑩レントゲン写真の必要性

歯やあごの病気の診断、あごの骨の中の歯の成長を知るために
レントゲン写真の撮影は欠かせません。

レントゲン写真でわかることは



1.むし歯の場所、大きさ、深さ、
乳歯の根っこの病気、
歯や歯の根っこの破折

2.あごの骨の中の歯の本数、位置、形、大きさ

3.あごの骨の病気や骨折、あごの関節の形

⑪ 障害を持っている子どもの歯の治療

むし歯の治療に全身麻酔を使うこともあります。

そのほうが安全で確実な治療ができる場合があります。

むし歯の治療になると、

あばれて的確な処置ができないこともあります。

かかりつけの歯科医にて定期的に予防と管理をしてもらうと

お子さんも安心できます。

当院では都立荏原病院と都立障害者口腔保健センターとの連携で、

障害者治療を行い、

その後の定期管理を当院で行なっています。

⑫けがで、歯が欠けたり、抜けた時

歯が欠けた時は、
使える場合もありますので、
欠けた歯をもって、
急いで歯科医院で処置を受ける様にしましょう。

歯がめり込んだり、抜けたときは
水道水でうがいし、口の中をきれいにしておきましょう。

出血がひどい時ガーゼを噛ませてください。

抜けた歯は根の先をさわらないで、
牛乳に浸して急いで歯科医院へ持って行ってください。

歯科医院へは、先に電話をしておくと、
事前に準備が出来ていて、スムーズな対応が受けられます。